

海況速報

平成7年度 第1号(通算 No.43)
平成7年5月8日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは
中央水試海洋部 0135-23-4020

4月上旬～中旬の海況

【日本海海域】

積丹半島西方はるか沖合に暖水渦(中心:200m層水温4°C以上)があります。この暖水渦は表層・50m層では単に5°Cの等温線が西方に広がる水温分布の中にあるので、表面の情報からその存在はつかみにくくなっています。

また、道南の渡島大島付近にも暖水渦(中心:200m層水温7°C以上)があります。これは、前回(2月)津軽海峡の西方にあった渦が北上したものと考えられます。時計回りの流れを持つこの渦が接する道南の桧山沿岸は、たとえば100m層で4°C以下のところが見られるよう、対馬暖流の北上がおさえられるために冷水域になっています。

道北海域の水温は、全体的に累年平均(*1)に比べ-1~+1°Cの範囲にありますが、北緯44度30分線の最も西の観測点では各層が-1~-3°Cの範囲にあります。

道央海域の水温は、累年平均に比べ-2~+2°Cの範囲のところが多くなっていますが、道南海域では沿岸寄りのところでマイナス傾向となっているほかはプラス傾向になっていて、特に暖水渦の中心の200m層で最大+4°Cになっています。

余市における沿岸水温(旬平均)は、3月上旬以降、平年値に比べ-0.1~+1.4°Cの範囲にあり、平年並みからやや高めで推移しています。

【道東太平洋海域】

前回(2月)は各層とも水温3°C以下の親潮の水に広く覆われていましたが、今回は100m層以浅で5°C以上の暖水が道東沿岸の親潮水域の沖側に入り込んでいます。この暖水の流入水域は前年同期(平成6年4月)とほぼ同様ですが、暖水の最高水温は、たとえば100m層では前年の11°C台に比べ今回は7°C台というように、前年よりも低くなっています。一方、沿岸の親潮水域の最低水温は、前年同期の1°C以下に対して今回は1°C台で、前年よりやや高くなっています。

水温について見ると、累年平均に比べ、沿岸の親潮水域では各層とも-0.5~+0.5°Cと累年平均並のところが多くなっていますが、その沖合海域では-3~+4°Cの範囲にあります。

【道南太平洋海域】

前回(2月)、道南太平洋海域にはまだ本格的に達していなかった親潮も、100m以浅の水温5°C以下の範囲から見て、今回はすでに恵山岬まで達し、道南太平洋海域を広く覆っています。したがって、津軽暖流は沿岸モードで流れていますが、襟裳岬南西沖には津軽暖流水

起源と考えられる、100m層以深の水温5°C以上の暖水が見られます。

水温について見ると、親潮の影響域では累年平均に比べ0~-3°Cの範囲にあり、やや低めとなっています。一方、津軽海峡東口の最高水温帶では+0.3~+2.6の範囲にあり、累年平均並みからやや高めになっています。

【オホーツク海海域】

水温について見ると、東経144度以西では、沿岸・沖合の各層とも累年平均に比べ-1~+1°Cの範囲のところが多く、累年平均並みとなっています。一方、網走北沖の観測線上では、沖合では各層とも累年平均に比べ0~-1°Cと累年平均並みとなっていますが、沿岸部の50m・100m層では累年平均に比べ+1.8~+2.5°C高く、ここでは宗谷暖流が低温の表層水の下を潜流となって流れています。

資料　〔観測期間〕

青森水試　(東奥丸)	平成7年4月5日～同4月6日	(東北日本海海域)
稚内水試　(北洋丸)	平成7年4月14日～同4月19日	(道北日本海海域)
稚内・網走水試　(北洋丸)	平成7年4月12日～同4月13日	(オホーツク海海域)
釧路水試　(北辰丸)	平成7年4月11日～同4月19日	(道東太平洋海域)
函館水試　(金星丸)	平成7年4月17日～同4月18日	(道南太平洋海域)
中央水試　(おやしお丸)	平成7年4月11日～同4月14日	(道央日本海海域)

*1: 平成2(1990)年～平成6(1994)年までの平均値を使用しました。

(中央水試　海洋部)







